

経済・金融
フラッシュ企業物価指数 2025 年 10 月
～コメ価格は高止まりが継続～

経済研究部 研究員 佐藤 雅之

TEL:03-3512-1831 E-mail: m-sato@nli-research.co.jp

1. 国内企業物価の上昇率は前年比 2.7%

日本銀行が 11 月 13 日に発表した企業物価指数によると、2025 年 10 月の国内企業物価は、前年比 2.7% (9 月: 同 2.8%) と上昇率は前月から 0.1 ポイント縮小した。

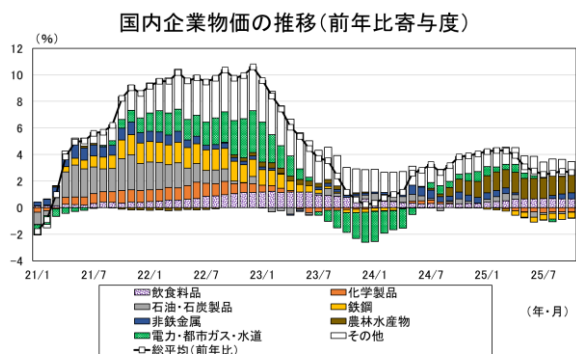
内訳をみると、23 類別中 18 類別が上昇、4 類別が低下、1 類別が横ばいとなった。コメは高い伸びが続いている。精米は前年比 44.4% (9 月: 同 44.8%)、玄米は同 54.2% (9 月: 同 59.9%) と高止まりが続いており、農林水産物は前年比 31.4% (9 月: 同 31.9%) となった。そのほか、チョコレート (前年比 37.2%)、コーヒー (同 32.1%)、バター (同 12.4%)、ルウ (同 11.1%) などが 2 ケタの伸びとなり、飲食料品は前年比 4.8% (9 月: 同 4.8%) と高い伸びが続いている。

一方、電力・都市ガス・水道は前年比▲0.5% (9 月: 同 0.6%) とマイナスに転じた。電気・都市ガス代の支援策は、補助額が前年のほうが大きかったため、25 年 10 月は物価の押し上げ要因となる。しかし、補助金を除いた本来の電力価格が下落したため、電力・都市ガス・水道は前年比マイナスとなった。

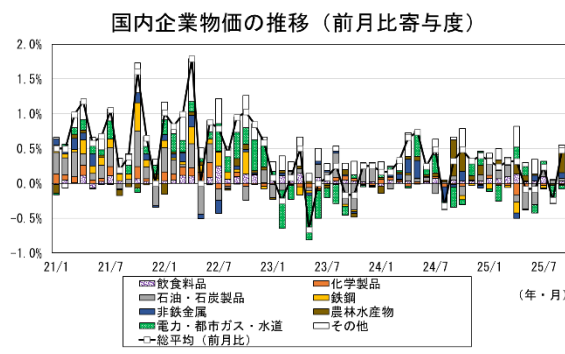
企業物価指数の推移

	国内企業物価		輸出物価 (円ベース)		輸入物価 (円ベース)	
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
24年 9月	0.3	3.2	-1.8	-0.7	-2.9	-2.7
10月	0.5	3.8	2.5	1.2	2.9	-2.5
11月	0.3	3.9	1.9	2.9	1.6	-1.4
12月	0.4	4.1	-0.8	4.8	-0.7	1.2
25年 1月	0.3	4.2	1.2	4.3	1.5	2.1
2月	0.2	4.3	-1.3	1.5	-1.9	-1.2
3月	0.3	4.3	-1.1	-0.3	-1.6	-2.5
4月	0.3	3.9	-1.9	-4.3	-2.9	-7.3
5月	-0.1	3.1	-0.9	-6.6	-1.0	-10.3
6月	-0.1	2.8	0.1	-7.2	-1.5	-12.0
7月	0.2	2.5	1.8	-5.6	2.0	-10.6
8月	-0.2	2.6	0.4	0.0	0.5	-4.3
9月	0.5	2.8	0.5	2.4	0.3	-1.1
10月	0.4	2.7	2.5	2.4	2.5	-1.5

(資料) 日本銀行「企業物価指数」



(資料) 日本銀行「企業物価指数」



(資料) 日本銀行「企業物価指数」

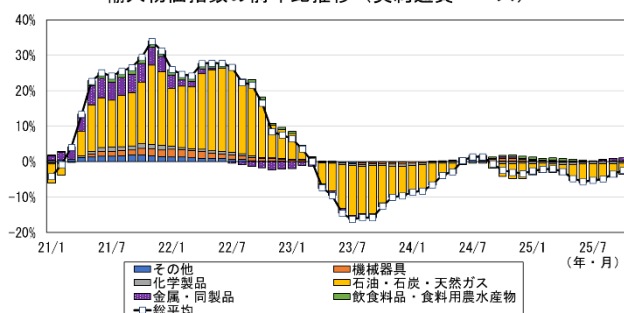
2. 円安の影響により、円ベースの輸入物価は前月比 2.5%

10月の契約通貨ベースの輸入物価は、前年比▲2.5%（9月：同▲3.5%）と14ヵ月連続のマイナスとなった。内訳をみると、原油が前年比▲5.6%と14ヵ月連続のマイナス、ナフサが同▲10.4%となったことなどから、石油・石炭・天然ガスは前年比▲10.4%（9月：同▲12.9%）と14ヵ月連続のマイナスとなった。

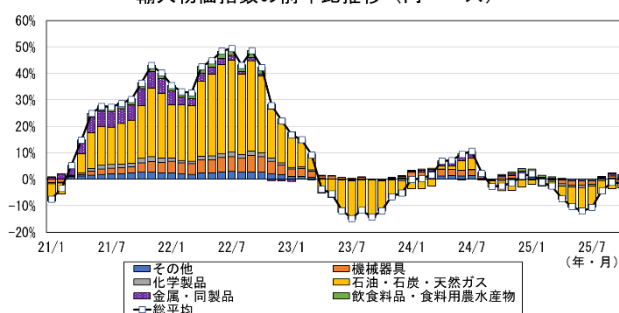
一方、前月比では0.7%（9月：同0.1%）と前月から伸びが拡大した。内訳をみると、原油が前月比2.4%、ジェット燃料油が同3.7%と上昇したことなどから、石油・石炭・天然ガスは前月比0.8%（9月：同▲0.1%）とプラスに転じた。また、銅が前月比3.4%（9月：同▲8.0%）とプラスに転じ、金地金が同9.7%（9月：同9.4%）、パラジウムが同21.9%（9月：同5.0%）とプラス幅が拡大したことなどから、金属・同製品は前月比3.2%となった。

10月の為替相場は、対ドルでは151円台（前月比2.2%）と9月から円安ドル高が加速したことで、円ベースの輸入物価は前月比2.5%（9月：同0.3%）と4ヵ月連続のプラスとなった。前年比では▲1.5%（9月：同▲1.1%）と6月の同▲12.0%からマイナス幅が大きく縮小している。

輸入物価指数の前年比推移（契約通貨ベース）



輸入物価指数の前年比推移（円ベース）



3. 先行きの国内企業物価の上昇率は鈍化すると予想

先行きの国内企業物価は、鈍化に向かうことが予想される。政府の経済対策を確認すると、与野党6党で合意したガソリン税にかかる旧暫定税率が12月末に廃止される。また、冬場の電気・ガス料金の支援についても検討されており、これらの政策は物価の押し下げ要因となる。

国内企業物価の前年比寄与度をみると、農林水産物が1.39%ptと最もプラスに寄与しているが、コメは前年の急上昇の裏が出やすいことから、コメ価格の前年比の伸びは次第に鈍化していくことが見込まれる。

足もとで円安ドル高が進行しているため、輸入物価は上昇しており、さらなる上昇リスクに留意が必要だが、コメを中心に食料品価格は鈍化していくことが見込まれ、国内企業物価の前年比上昇率は次第に低下していくと予想する。